

## イエスの涙

ルカによる福音書一九章41〜48節

エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のため  
めに泣いて、言われた。「もしこの日に、お前も平和への道を  
わきまえていたなら……。」(41、42)

主イエス一行がいよいよエルサレムに近づき、遠くから都を眺めたとき、イエスは涙を流されました。この涙はエルサレムの人々の苦しみに対する同情の涙ではありません。これはイエスだけが気づいておられる、人々の罪の現実を見つめたところからくる涙でした。神の御子が訪ねて来られたのに、その御子を殺そうとしてゐる人間のとてつもなく大きな罪に、イエスは心が張り裂けそうになったのです。本当はイエスではなく、世の人々こそ自分たちのために激しく嘆かなければならなかったのです。主イエスは今も、この私たちが自分たちの罪に対して極めて鈍感である様子をご覧になって涙しておられるのではないのでしょうか。このイエスの涙は、やがて十字架の上でのあの祈りにたどり着きます。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです」(二三34)。